



2  
1. 訪れた人を最初に出迎える「二見ヶ滝(ふたみがかたき)」。ツツジが咲くころには、ツツジと滝のツーショットが見事。  
2. 遊歩道を上流に向かって登っていくと現われる「青葉の滝」。滝の手前は浅瀬になっており、夏場は水遊びをする人も。  
3. 二見ヶ滝と青葉の滝の間に位置する「そうめんの滝」。水がそうめんのように流れることからつけられた。

**四季折々に  
表情変える滝の数々**  
滝・溪流巡りのスタート地点は、渡瀬字前ノ沢地内にある「江竜田の滝」。二見ヶ滝、そうめんの滝、青葉の滝のほか

続いて訪れたのは、江竜田の滝の上流に位置する「滑滝」です。渡瀬字下から大戸中方面に向かい、林道渡瀬川線の右下にある杉木立にはさまれた滝です。「降りられない

**滝の名スポット  
渡瀬地区**

と感慨深い様子です。」

緑のふるさと協力隊の遠山陽子さんが江竜田の滝を訪れるのは、今回で四回目。訪れるたびに変わる滝の表情に写真撮影に夢中です。また、豊富な水量を前に「日本がいかに水が豊かで恵まれているのかを実感します」と

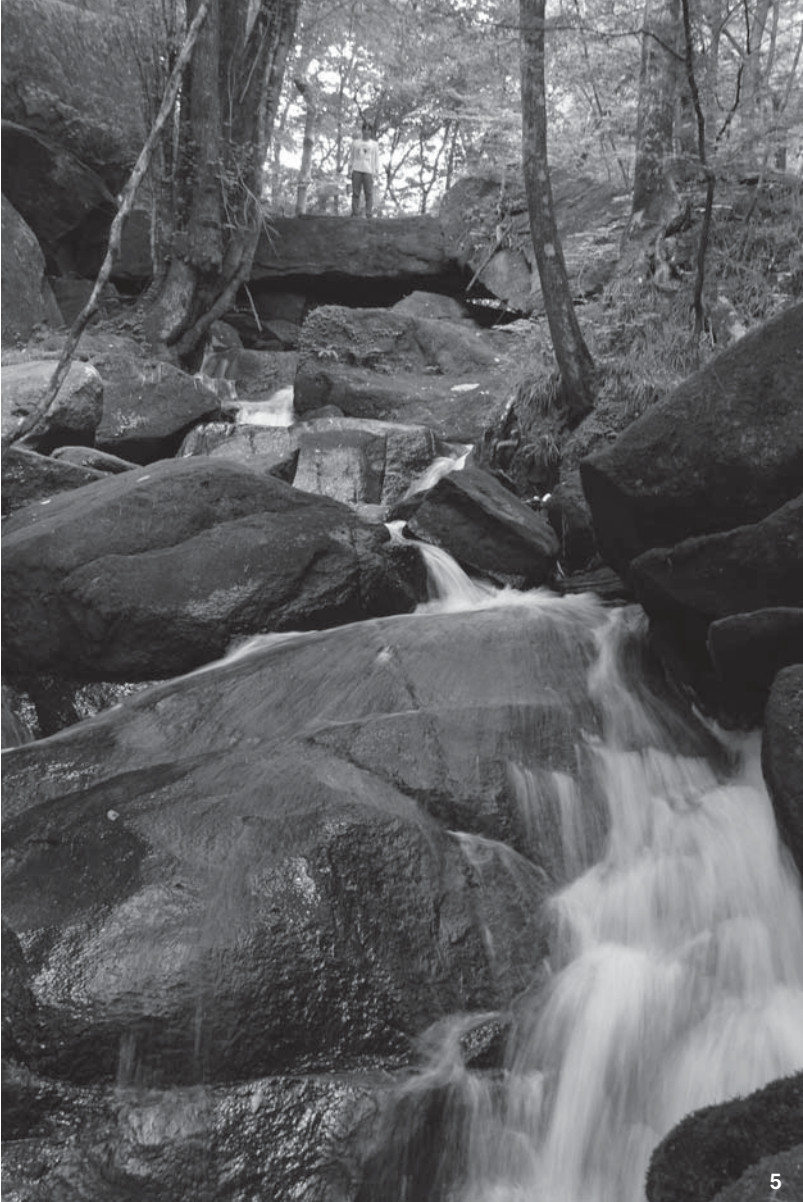
# 涼を求めて

【特集】さめがわの滝・溪流を巡る

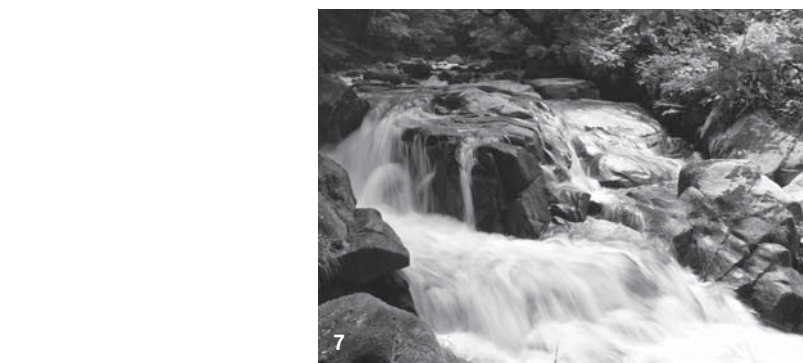


8月に入り、鮫川村も夏本番を迎え暑さが厳しくなります。そんな暑さに負けないためにも、冷房が効いた室内にいるばかりではなく自然の涼しさを求めて村内に繰り出してみましよう。4月に鮫川村に来たばかりの緑のふるさと協力隊の遠山陽子さんと一緒に村内の涼スポットを歩いてみました。





- 4. 実物を見ると、その大きさに驚く「天狗橋(てんぐばし)」。春にはカタクリやニリンソウが咲き誇り、夏は緑がまぶしい。
- 5. 天狗橋の下を清流が流れる。下からのアングルも見ごたえ十分。
- 6. 「こわだき橋」を渡ると遊歩道が整備されており、森林浴をしながらウォーキングするには最適な場所。
- 7. 岩肌を豪快に流れる水の音が、さらに清涼感を与えてくれる「強滝(こわだき)」。



- 1. 「滑滝(なめらだき)」。滝までの険しい道のりとは対照的に、穏やかな流れを見せてくれる。
- 2. 今の時期、滝の周辺にも咲いている「ヤマユリ」。その凛とした姿がさらに涼しさを演出する。
- 3. 癒し効果は抜群の「越虫の滝(こえむしのたき)」。あまり知名度はないが、車で通り過ぎてしまうにはもったいないほど。

ことはありませんが、少し険しい道のりです」と話す遠山さんの言葉通り、道路沿いの急傾斜を慎重に降りていくと、なだらかな岩の斜面を清流が滑り落ちるように流れる滝が顔を出します。国道二八九号を越虫から丸谷地へぬける中間地点にある「越虫の滝」。

なだらかな斜面を降りていくと、渡瀬川の清流がおよそ五メートルの岩場を白い水しぶきをあげ、垂直に流れ落ちる滝が現れます。今回、初めてここを訪れた遠山さんは「入口が分かりにくいですが、きれいな雑木林の中にある滝は自分だけの秘密の場所のようでワクワクします」と、神秘的な印象さえ受けました。

### 遊歩道を利用して滝に親しむ

赤坂東野字蔵ノ草地内の森の中、川沿いの遊歩道を歩いていくと、長さ七・九メートル、幅四メートルもある自然の大石橋「天狗橋」が現れます。天狗がかけた橋として伝説がある場所だけに、

木々が生い茂り昼間でも薄暗さを感じます。溪流の清々しい流れと合わさり、涼しい澄んだ空気が立ち込めています。遠山さんも「岩の間を水が流れていく様子を見ているだけで暑さを忘れてしまいます」と、天狗橋を後にしました。

最後に締めくくるのは、紅葉の時期に多くのカメラマンでにぎわう「強滝」です。赤坂東野字前田から西山字馬場へ向かう国道三四九号沿いのおよそ二キロメートルにわたって急流が連なっています。溪流の東側には遊歩道が整備されており、心地いい木漏れ日の中、清流を眺めながら散策することが出来ます。この日、実際に遊歩道を歩いた遠山さんは「川を横目に森の中を散策するのは、とても気持ちよかったです」と鮫川村の自然を堪能した様子でした。

皆さんも自然のクローンを体感してみたいか、がでしょうか。